

東北大学機械系

同窓会ニュース

第20号



叙勲	2
工学研究科・工学部における教育改革とリーダー教育	3
機械系低層実験棟の完成	3
オープンキャンパス開催	4
学部3年生の近郊・学外見学報告	5
海外留学体験記	6
進路指導状況について	7
機械系広報推進室の活動	7
産学連携推進室だより	8
最終講義	9
東北大学機械系同窓会学生会員資格の新設につきまして	9
同期会報告	9
総会予告／事務局便り／学生支援報告／編集後記	9

東北大学機械系同窓会

〒980-8579
仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6-01
東北大学工学部機械知能・航空工学科内
電話：(022) 795-6926
FAX：(022) 795-6926
E-Mail：dousou@mech.tohoku.ac.jp
ホームページ：
<http://www.mech.tohoku.ac.jp/dousou/>
郵便振替口座 番号 02270-8-11176
名称 東北大学機械系同窓会
印刷 笹氣出版印刷株式会社

会費納入のお願い

同窓会は、会員皆様が納入される会費によって運営されています。同封の振込用紙を使って会費納入をお願い致します。

◎年会費 2,000円

上條謙二郎名誉教授が 「瑞宝中綬章」を受章

東北大学流体科学研究所 教授 石本 淳

機械系同窓会の皆様には、上條謙二郎名誉教授が、平成26年4月29日付で瑞宝中綬章を受章されましたことをご報告し、会員一同心からお祝い申し上げます。

上條謙二郎先生は、昭和15年長野県松川町のお生まれで、昭和44年に東京工業大学大学院博士課程を修了され、工学博士の学位を授与されました。同年航空宇宙技術研究所（現JAXA）に奉職され、平成5年航空宇宙技術研究所角田宇宙技術研究所角田宇宙推進技術研究所センター・ロケット推進研究部長を経て、平成8年東北大学流体科学研究所 極低温流研究分野の教授に就任されました。

先生はわが国の液体ロケット研究の黎明期から、東北大学流体科学研究所 教授として在籍時、低温推進剤ターボポンプの研究ならびに応用研究に努め、この分野で世界的な成果を挙げるとともに、わが国の液体ロケットの打ち上げを成功に導いたほか、米国や欧州のロケット開発にも重要な貢献をされました。特に、ロケットエンジンの故障に多大な影響を及ぼす旋回キャビテーション現象の発見とその解析理論や抑止法を通して、我が国の新規な流体工学、とりわけ世界最高水準の流体科学の向上発展に多大なる貢献されました。このような数々の卓越した研究成果により、平成16年には紫綬褒章を受章されております。筆者は平成8

年より3年間、先生の研究室（流体科学研究所 極低温流研究分野）の助手として在籍させていただき幸運に恵まれました。その当時担当させていただいた研究テーマである極低温流体混相流に関する研究はきわめて先進的・魅力的なものであり、この当時学んだ基礎知識は現在筆者が推進する主力テーマの基盤となっております。また、先生の研究哲学や方法論に関しては非常に斬新で心の底に響くものがあり、筆者を含めて多くの学生や若手研究者の精神的支柱になつているものと確信しております。先生がご専門のロケット用ターボポンプに関する理論は非常に高度で難解な分野ではありますが、研究室のセミナーで先生が独特のウィットに富んだ御説明を開始されると、難解な理論でも不思議とわかりやすく頭に入つていったことを記憶しております。先生のようにある一つの分野を極めた方の成せる技ではないでしょうか。先生はこのような長年にわたる航空宇宙工学の啓蒙・教育・科学技術活動に関する立派な御功績が認められ、この度、瑞宝中綬章の栄に浴されました。上條謙二郎先生のこれまでの御功績に対し、私ども後塵は改めて深甚なる敬意と感謝の意を表すると共に、いつまでもご健勝で活躍されんことを祈念いたします。この度の受章、誠におめでとございます。



工学研究科・工学部における 教育改革とリーダー教育

機械システムデザイン工学専攻・教授
副研究科長(教育担当) 湯上 浩雄

機械系では、大学教育の国際化・グローバル化の実現に積極的に取り組み、工学研究科をリードしてきました。留学生受け入れ拡大を目指したグローバル30事業による、学部から大学院にわたる英語教育コースの整備が整い、平成29年度からは新たな入学試験である「グローバル入試」を実施いたします。これは、これまで英語コース入試が外国人のみに限定されていたのですが、それを日本人学生、とくに海外在住の日本人やインターナショナルスクール学生、国内バカロレア認定校の卒業生に拡大するもので、機械系学科をはじめとする理系学科においては、全国初の試みです。これにより、国際共修環境の一層の促進と日本人学生への刺激が期待できます。

一方、工学部・工学研究科全体としては、金井研究科長のもと教育改革を進めてきました。大きなものとしては、工学教育院を設置(2014.4)して、これまで系・学科単位では手薄になっていた領域(英語教育、PBL型教育、境界領域教育や学生支援など)を強化するものです。機械系をはじめとして多くの現職教員と退職教授の先生方のご協力を得て、軌道に乗りつつあります。

工学教育院の大きな施策として、「6年一貫教育をベースとした「レベル認定制度」の創設と運用が有ります。これは、

これまでの単位制により卒業認定に加え、5つのジャンルにおいて、学生の色々な学修成果や活動を加点主義で評価してやることにより、学生が自ら学ぶ意欲を刺激すると共に、自分が自ら学ぶ意欲を促進することにより、自己自身の足りない部分を自覚することで、能動的な学修を促進するものです。5つのジャンルは、「基礎学力」、「専門学力」、「課題解決/論理展開力」、「語学力」、「価値創造力」です。基礎学力における物理・数学の統合問題を含む統一テストを実施などにより、学修目標を学生自身が認識し、豊富な学習量を背景とした確固たる基礎力・専門力と、新しい価値観を創造する総合力を育成することが目標です。

工学教育院のもう一つの教育の方向性として、リーダー教育が有ります。これまで、平等性を第一に、均一な教育を基本としてきました。その考えは堅持しますが、それに加えて、能力が有り意欲ある学生に対しては、将来のリーダーとして必要な能力の素養を付ける教育を行います。

これらの教育改革により、機械系の学生が国内外で活躍の場が一層広がることを期待しています。今後とも、ご支援ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

機械系低層実験棟の完成

医学工學研究科 教授
厨川 常元

(精密工學科54年卒)

旧機械系3学科(機械工學科、機械工學第2学科、精密工學科)が青葉山地区に移転した昭和39年の翌年、低層実験棟

が竣工いたしました。それから約半世紀にわたり、学生実験、工作実習、研究教育に使用されてきました。その間、1978年の宮城県沖地震(M7.4)、2011年の東日本大震災(M9.0)の2度の大地震を経験しました。特に2011年の地震では、老朽化していた実験棟は大きな被害を受けました。その結果、2013年より建て替えることになりました。機械系2号館(旧機械工學科、機械工學第2学科の建物)の北側の古い低層実験棟2棟を解体、その空き地に総面積1200㎡の新低層実験棟を新設することになりました。

工事は2013年4月より開始され、2014年3月に完成いたしました(写真1)。写真2~4はその工事の過程を表したものです。敷地形状はL字型で平屋建てです。その内部は試作工場425㎡、精密加工室187㎡、材料試験室132㎡、風洞実験室400㎡の4つに分けられております。それぞれのエリアの床は、振動の影響を相互に受けないように独立に地切りしてあります。試作工場には移動式大型クレーンを設置、すべての照明はLEDとしました。

完成後、直ちに旧低層実験棟から設備を移設し、4月からの新学期から稼働させることができました。新試作工場では旋盤、フライス盤、NCフライス、超精密研削盤等を設備、学部3年生の工作実習に活躍しております(写真5)。私が学生だった頃、技官の方たちから熱心に教えていただいた工作実習の伝統は受け継がれているものと強く感じます。

一方、古い実験棟はすべて解体されました(写真6)。現在、跡地の利用方法

や将来プランを策定するため、利便性、安全性、景観の観点から議論をしているところでございます。さらに、本年12月には仙台市地下鉄東西線が開業予定です。それに伴い、キャンパスライフはますます便利になると予想され、それに適合した新しい利用方法が期待されております。今後、機械系はグローバルにも大きく展開して行く予定で、魅力的なキャンパスライフの実現は必要不可欠です。我々は新時代に向け、機械系の総合的な魅力を高めていきたいと思っております。同窓生の皆様のご健勝を祈念するとともに、ますますのご指導、ご鞭撻を御願ひ申し上げます。



写真1 完成した新低層実験棟、奥側に見えるのは高機能試作センター



写真5
新低層実験棟の
試作工場内部



写真6
旧低層実験棟解体跡地
(共同棟南側)



写真4
工事の進展状況 (2013年12月頃)



写真3
工事開始 (2013年12月頃)



写真2
工事開始 (2013年10月頃)

オープンキャンパス開催

機械システムデザイン工学専攻 准教授
水谷 正義

平成二十六年七月三十日から二日間の日程でオープンキャンパスが開催されました。工学部全体の来場者数(六九一名)に対して、機械・知能系には、その約半数以上の三八九一名の来場者が訪れており、大盛況での開催となりました。三十一日には、突然の雷雨に見舞われるなどのハプニングもございましたが、担当教員や学生スタッフの迅速な対応により、大きな被害の報告はなく無事に終えることができました。

本年度のオープンキャンパスでは、学生ボランティアを充実させ、スタッフユニフォームとなるTシャツを学生自身にデザインしてもらうなど、学生主体で当日の運営を行ってもらうというスタイルで取り組みました。とくにこのオープンキャンパスへの来場者の約七十五%が高校一年生・二年生であるということ(アンケート集計結果より)から、本学への入学を選択肢の一つとして考えている高校生に対して、実際に大学に通う学生の声を聞いてもらうことで、進学後の自分の姿をイメージし、本学への入学を志望する動機づけとなるよう工夫しました。その甲斐もあってか、当日実施したアンケートでも、学生スタッフの対応が来場者から非常に好評を得ており、中には、本学へ入学し、次はスタッフとして対応したいという意見も見られました。

また、毎年実施している「オープン講義」では、二日間で四名の先生方に講義

を行って頂きました。当日は、高校生はもちろん、そのご父兄やその他非常に多くの来場者で立ち見が出るなど、例年通り大盛況となりました。実際に聴講して頂いた来場者からも、「最先端の研究に触れることができ、大変満足だった」という声が多数聞かえてきており、充実した内容であったといえます。

さらに、このオープンキャンパスのメイン企画である「機械系大博覧会」では、研究室の公開にとどまらず、研究に関連する多くの企業様にも加わって頂き、それぞれ趣向を凝らした展示を実施して頂きました。本学で行われている研究が、どのような形で社会に活かされているかを知ることができる機会でもあり、来場者の方々が説明員の話しに真剣な顔で耳を傾ける姿からは、本学の研究に対する注目度の高さを伺うことができました。引き続き、最先端の研究成果を発信していけるよう努力して参りたいと思っております。

最後に、関係各位、ご参加頂いた同窓会の皆様方に厚く御礼申し上げます。



(写真) 受付の様子



(写真) オープン講義の様子

学部3年生の近郊・学外見学報告

エネルギー安全科学国際研究センター 准教授

佐藤 一永

機械系4コースでは、学科創設以来、学部3年生の正規課外授業といたしまして、企業等の見学学習を実施しております。大学入学以来、機械工学に関する専門講義を約1年受け、大学での講義や実験・実習が実社会にどのように生かされているのか、企業における生産活動や研究開発の場の見学を通じて学ぶ事を目的としております。また、学生達にとっては将来の進路を考える貴重な機会となることも期待しております。平成26年度は、機械システムデザインコース61名が、9月8日〜11日において、航空宇宙コース46名、ナノメカニクスコース50名、バイオロボットシステムコース46名が9月16日〜19日において、仙台ニコン、富士通、川田工業、東芝、三菱重工、新日鐵住金、IHI、日本精工、OTTO、東京ガス、いすゞ自動車、テルモメディアカルプラ

ネックス、ANA、富士重工、JR東日本、NECトーキン、JFEスチール、日本航空、JAXAの各社様のご理解とご協力を頂き、見学させていただきました。各コースを2名の教員が引率し、筆者もナノメカニクスコースの引率を努めさせていただきます。紙面の都合上、全てをご紹介する事はできませんが、一例としてナノメカニクスコースに関して掻い摘んでご紹介させていただきますと思います。

9月16日の7時50分に工学部中央食堂前バスプールに集合いたしました。始発の公共交通機関では間に合わない時間設定だったため、遅刻者が出る事を懸念しておりましたが、7時過ぎには全員が集合し、予定時間よりも早く出発する事ができました。そのため、渋滞に巻き込まれる事も無く、ゆつたりとした行程で最初の目的地であるIHI横浜工場に移動する事ができました。バスでの長距離移動ということで、到着した瞬間は学生達も疲れた表情を見せておりましたが、これまでの生活では見た事の無い、大型の圧力容器や反応容器の製造工程や研究所での開発中のプラント試験機等を目の当たりにし、目が輝いていくのがわかりました。

2日目は、日本精工とOTTOに伺いました。両社にご協力していただき、極少人数グループに分かれた見学会と幅広い年代の機械系の先輩との座談会を企画していただきました。ロールモデルである先輩方の学生時代の過ごし方、考え、失敗談、成功談：様々なアドバイスをいただく事ができました。我々が持つ会社のイメージと将来を見据えた企業の

動きのギャップに驚き、加えて全く無関係と思われる技術開発のペースに四方の存在が大きい事が実感でき、改めて私個人としても大きな衝撃を受けました。

3日目は、東京ガスと新日鐵住金に伺いました。3日目にもなると学生同士も打ち解け合い、ナノメカニクスコースとしての一体感も感じられるようになりました。両社には入社5年以内の先輩方に協力していただき、見学と座談会を企画していただきました。前半2日までに見学した工場や研究所とは全く異なるスケールを体感し、インフラと工業製品の根本となる会社の大きさを実感する事ができました。

最終日は、富士通AKISAIやさしい工場に伺いました。近郊見学を兼ねており、目的地の会津若松まで移動をいたしました。半年前に半導体工場から衣替えして立ち上げたばかりの最新鋭の工場は、未来の農業と工業製品の融合を予感させるいい経験でした。実際に収穫したレタスの試食をしながら聞いた苦労話は、報道されている情報とは大きく異なり、私個人としても大変良い刺激となりました。

見学前の3年生の姿と帰りのバスでの彼らの姿は、言動や行動のどれをとっても劇的に変化したように思います。我々教員も普段は研究室を中心とした比較的狭いコミュニティの中に居るため、どうしても自分の殻に籠ってしまう傾向がありますが、この4日間は、自身の間人観や研究観を良い意味で壊すとても良い機会になりました。

最後になりますが、ご対応下さいました皆様には、ご多忙のところ事前の準備・

当日のご対応等多くの時間を割いていただきました事、私のわがままに添えて数々のご配慮を賜りました事、厚く御礼申し上げます。

今後もこのような機会を通じて、実社会における工学実践に触れる場を学生に提供して参ります。同窓会員の皆様をはじめ関係者の皆様には、ご協力賜りたくよろしくお願いいたします。ご協力いただける見学先の開拓も積極的に進めて参りたいと思いますので、ご検討いただければ幸いです。ぜひ、ご一報いただけますと幸いです。



新日鐵住金君津製鐵所にて

海外留字体験記

機械システムデザイン工専攻 博士課程前期2年
伊賀研究室 柏田 峻

2013年8月末から9ヶ月間、大学間協定のG E 3 (Global Engineering Education Exchange) による派遣交換留学でイリノイ大学アーバナ・シャンペーン校(U I U C) に滞在する機会を頂きました。U I U Cは、アメリカ第3の人口を誇る都市シカゴから車で3時間ほど南下したところにある、アーバナおよびシャンペーンという町にまたがる学生数4万4千人にも及ぶ総合大学です。シカゴからそう遠くないと聞くとそれなりに都会と思われるかもしれませんが、それとは真逆、広大なトウモロコシ畑に囲まれ、遠く地平線を望むこともできるのどかな場所(中にはこれを皮肉って『Middle of Nowhere』と呼んでいる学生もいました)にあります。そこでの体験を簡単ではありますがまとめさせていただきます。

当時私はまだ修士1年になったばかりだったため、日本に戻ってから研究する上で役立つ体系的な基礎知識を習得しようとして、主に熱や流れに関する授業を履修していました。秋 semester の初めは噂に聞いていた通り大量に課される宿題をこなすのに必死でしたが、春 semester になると、より発展した内容もスムーズに理解できるようになっていることに気が付きました。授業は学部が大学院かでレベルや学生の真剣さに開きがあるように思いました。具体的には、院生向けの授業では数学が一気に高度になります。アメ

リカの大学院のシステムは日本と大きく異なり、はじめから博士号取得を前提としている人が多いのも印象的でした。このためか、授業に関しては修士と博士の明確な区別が無く、授業によっては履修者のほとんどが博士学生というところもありました。従って、演習やディスカッションはいずれもレベルが高く常に必死でしたが、このような環境で採られたことは良い経験になりました。生活面ではこれといって困ることはなかったのですが、数ヶ月生活してみると、時に人種差別のような普段表に現れてこない暗い部分も目の当たりにしました。留学するまで直面したことがなかった問題に当惑しましたが、考えさせられると同時に、決して他人事ではない身近な問題として捉えられるようになったように思います。



9ヶ月は思った以上にあっという間に過ぎてしまいました。その間に経験したことや考えたことは、今後の自分の考えや行動に計り知れない影響を与えていると思います。最後となりましたが、このような貴重な機会を与えてくださったプログラムに携わる方々、快く送り出してください。くださった先生方に心より感謝申し上げます。

進路指導状況について

機械系産学連携推進室 室長
技術社会システム専攻 教授
中田 俊彦

平成12年度に発足した機械系産学連携推進室は、企業と大学間の共同研究等の連携の機会提供と、学生の進路支援を目的にしています。前者は、会員制の機械系産学懇談会を主宰して、企業向けの研究室見学会を定期開催するとともに、研究室紹介誌OPENを毎年配布して、機械系の研究室組織をわかりやすくお伝えしています。

進路支援は、大学推薦を依頼する求人企業に対して、学生の志望に基づいて仲介しています。昨年度から、学生と企業との事前のジョブマッチング成立を前提とした大学推薦制度A方式と、従来の大学推薦制度B方式に分けて、運用を始めました。今年度は、5月上旬に学生の希望をとりまとめて、企業に学生を推薦する予定です。約220名の機械系修士学生のなかで、150名程度の推薦希望を予定しています。残りは、自由応募による就職と、博士課程進学です。

就職内定に至るスケジュールは、最終選考試験が従来の4月から8月に延期された一方で、夏冬インターンシップや東京開催の企業セミナーなど、学生への情報提供は増えるばかりです。それらのなかで、同窓生との出会いをきっかけとする就職機会の重要度が高まっています。3月8日(日)に機械系同窓会と共催して開催するオープンフェスティバルには、133社の企業の参加を予定しています。機械系同窓生の皆様方には、ご関心のある機械系研究室との連携の機会を活用されると共に、卒業生の就職に関しては引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

機械系広報推進室の活動

機械系広報推進室 室長
機械システムデザイン工学専攻 教授
琵琶 哲志
機械系広報推進室 担当
渡邊 琴美

機械系広報推進室では、多くの小・中・高校生に対して、東北大学機械系の魅力を伝えるために、パンフレットの制作やウェブサイトを(東北大 機械系)で検索)での情報発信、出前授業や学校見学などのアレンジ等の広報活動を行っています。

今年度の活動としましては、7月30日・31日に行われたオープンキャンパスで、協力講座を含めた各研究室から学生ボランティアを各日1名ご協力いただき、昨年度よりも充実したスタッフ体制で臨みました。スタッフユニフォームのTシャツ

ツは学生からデザインを募集・採用し、学生を主体に取り組んでもらえるよう工夫したことや、各研究室に来場者用のオリジナルステッカーを作成してもらい、来場者の見学する研究室の数を増やす試みも実施しました。例年学生スタッフの対応が来場者から大変好評を得ていることから、今後もより機械系学生の魅力が伝わるような工夫をして参ります。

パンフレットは、これまでの機械知能・航空工学科の冊子に加え、主に女性をターゲットとした機械系のパンフレット



(図) 女性向けパンフレット「Present and Future —機械系女子のいまと未来と。—」

(図) を新たに作成いたしました。機械系の女性に対するサポート情報や進路情報だけでなく、高校生にも大学での研究や卒業後の働く姿をイメージしてもらい、現役の女子学生と卒業生の座談会、卒業生インタビューなどを盛り込んでいます。

今後は、高校生が進路選択する上でどのようなものに興味を持ち、どのような情報を必要としているかをふまえて、ウェブサイトの改訂や新規コンテンツの作成を進めていく予定です。また、海外向けの広報も充実させて参ります。

機械系同窓生の皆様方には、引き続きご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

産学連携推進室だより

機械系産学連携推進室 室長
技術社会システム専攻 教授

中田 俊彦

機械系産学連携推進室担当

林田 静子

平成12年度に発足した機械系産学連携推進室は、機械系2号館317号室を拠点として教員10名と事務スタッフ1名で業務を進めています。おもな業務は、①企業と大学間の共同研究等の連携機会の情報提供と、②学生の就職支援および技術教育の促進を目的にしています。①で

は、会員制の機械系産学懇談会を平成13年度から設置し、14年間延べ1521社にご入会頂いています。本会では産学ネットワークの構築を目的とした企業向けの研究室見学会を年2回開催すると共

に、研究室紹介誌OPENを毎年配布して、複雑になった機械系の研究室組織をわかりやすくお伝えしています。

就職支援は、昨年度から新たな大学推薦制度（A方式）と従来からの大学推薦制度（B方式）を分けて運用を始めました。A方式は学生と企業との事前のジョブマッチング成立を前提とした大学推薦制度です。今年度はA方式では合格率97%となり、B方式と合わせて143名合格しました。残りの学生は、自由応募での就職、博士後期課程へ進学しています。

平成27年度は学生が学業に専念する十分な時間を確保するため、採用選考活動の開始時期が見直され、8月1日以降に最終選考が開始されます。そのため、例年よりも回数を多くし、進路ガイダンスおよび「先輩が先輩に語る講演会」を行い、進路の参考になるさまざまな体験談を機械系先輩から現役学生にお話し頂いています。

技術教育の促進では、修士1年生のインターンシップ支援を行っています。今年度は、60%の学生が企業での研修を受けました。研修を行う前までは消極的な印象だった学生も、実際研修を行ってみると、ほぼ全員が「大変良い体験だった。はつきりとした目的意識を持って就職活動に、勉強に向かうことができそうだ」と感想を語っています。

また、昨年度に引き続き機械系オープンフェスティバル（機械系学生と先輩との交流会）を、平成27年3月8日（日）に開催します。これは、社会で活躍する先輩と、現役学生との交流の場の提供を目的とした交流型のイベントで、機械系

同窓会と共同で主催します。会場は、青葉山キャンパス内の工学部中央棟です。機械系同窓会通常総会と同日の開催ですので、是非賑やかな交流会をご覧ください。

機械系同窓生の皆様方には、機械系研究室との連携と、卒業生の就職に関して、引き続きご支援をよろしくお願い申し上げます。また、機会がございましたら、ぜひ産学連携推進にお立ち寄りください。



平成26年度業種別就職実績 (学校推薦)

内山勝 教授 最終講義

平成27年3月末をもちまして、機械系教授の内山勝先生がご退職されます。

内山先生は1977年に東京大学大

学院工学系研究科博士課程を修了され、工学博士の学位を授与されました。同年5月本学工学部精密工学科助手、助教を経て、1992年本学工学部機械航空工学科教授に昇任されました。

2009年には工学研究科長に就任され、工学部・工学研究科全体の運営を強力に推進されました。

先生のこれまでの御業績を称え、また長年の御苦労に感謝の意を表すべく、最終講義が開催されます。

平成27年2月27日・機械系第1講義室「機械工学からロボティクスへ」

先生の研究生生活の集大成となる貴重な御講義ですので、是非御参加下さい。

東北大学機械系同窓会 学生会員資格の新設につきまして

ナノメカニクス専攻 准教授 燈明 泰成

平成26年5月24日(土)にアルカディア市ヶ谷(東京都千代田区)にて開催された平成25年度通常総会におきまして、これまでの正会員、ゲスト会員に加えて新たに学生会員資格を新設することが提案・承認され、本会会則第四条が改定されましたのでご報告いたします。

学生会員は会則第四条三(イ)に「東北大学工学部機械系学科及び東北大学大学院の機械系関連講座・分野の在学生」と加えられました。すなわち該当者は機

械系現役学部・大学院学生であります。

これまで学部学生は本会会員資格を有しておりませんでした。卒業後に正会員となる学部学生を早期に会員とすることで、当人の本会への帰属意識を高めることが狙いにあります。一方、本学卒業の大学院学生につきましては既に正会員の資格を有していましたが、現役大学院学生を会員とすることで他大学出身の大学院学生も入学後に直ちに本会に参加できることとなりました。

また学部、大学院学生問わず学生会員の会費は無料といたしました。現状におきまして正会員の資格を有する大学院学生の会費納入率は極めて低く、また修了後の会費納入継続率も向上の余地がある状況にあります。この様な状況に鑑み、本学卒業の大学院学生につきましても在学中は継続して学生会員とすることで会費を免除して本会行事への積極的な参加を促し、当人の本会への理解と帰属意識を更に高めることで修了後の会費納入継続率をより向上させたいというのが狙いがあります。一方、費用の要する印刷物の学生会員への配布には制限を設け、必要な情報は本会ホームページ等で入手できるようにいたしました。

学生会員資格の新設は本会の活性化に大いに資するものと期待されますので、会員各位の皆様方におかれましては何卒ご理解いただけますよう、宜しくお願ひ申し上げます。

同期会報告

機械三十一年卒同期会

秋も深まった11月6日、毎年恒例で開かれていた機械工学科31年卒同期会が大手町の日立かまくらクラブで開かれた。出席12名で些か常連化してはいますが、なかでも癌で胃を切除し退院後2日で群馬から出席した村越君、腎不全で血液透析中にも拘わらず福島いわき市から出席の蜂谷君、肺癌養生中の西尾(陽)君など妖怪的傘壽超人の元気に、健康組はやや圧され気味の集いとなりました。

小田桐幹事の挨拶、西尾(宣)代表幹事の挨拶のあと歓談になりましたが、宍戸君の友人で癌の手術後百名山を踏破して「ガンと一緒に山登り」を出版したくだりは皆んなを大いに力づける話でした。

また、メンバーの中では、国際会議や駐在、長期出張などグローバルな仕事に従事した経験を積んだメンバーが多いので、一度集まって座談会を計画してはどうか? との提案が小野寺君から出され論議したが、明確な結論までは至らなかった。

懐古談は尽きる事無く続き、お店の再三の追い出し勧告にやっつと応じ、次回幹事を大野、石川両君に引き受けて貰い再会を約し「病気になるでも病人になるな」を心に刻みながら名残惜しい会を閉じた。

羽根田 健

(機械工学科31年卒)



後列左から 佐藤 太田 蜂谷 小田桐 石川 小野寺 西尾(陽)
前列左から 羽根田 大野 宍戸 西尾(宣) 村越

精密三十一年卒同期会 第一六回目の同級会

平成26年11月11日(火)の午後、精密工学科昭和32(1957)年卒業生は、文京区小石川後楽園内の「涵徳亭」に、12名が集まり同期会を開催した。昨年より1名多い。

足元が不安だったという、町 眞次氏は、沼津市の小泉 晋氏に同道し、二年ぶりに、福島の地酒持参で出席した。昨年事情があつて欠席した加藤 洋氏、小林貞雄氏と神賀 弘氏も元気な顔をみせてくれた。

この日の東京の最高気温は、15・8度、おだやかだった前日より6度以上低く、早々に会場内の部屋(不老・蓬萊の間)に入る。室内から見える後楽園の庭は、紅葉がこれから始まろうとしている。

山崎 勉氏に集合写真を撮ってもらう。機械系同窓会ニュースに、今年も写真を掲載できるのがあるがたい。

神戸市在住の木村六三郎氏が、5月12日に81歳で旅立たれた。2006年10月の出席が最後になってしまった。新幹線(事故)の遅れのため、閉会30分前にかばん片手に会場に現れたときの姿が忘れられない。

恩師の小林清志先生は、2013年10月末に、91歳でお亡くなりになりました。先生は88歳まで元気にゴルフを、そして90歳ごろまで車の運転をされていた。葬儀に出席した町 眞次氏は、ゴルフを通じて15年間も続いた恩師との交流を、B5判用紙にまとめて持参し、われわれに伝えてくれた。

先生と木村氏に対し、一同黙とうを捧げた。塩竈市から出席の福来友康氏のあいさつのと献杯し、今日、明日、明後日を有意義に生き続けていき、今後われわれが何をして行くべきかを、共に考えていくことにした。

乾杯のあと、食事をしながら歓談を続ける。小泉氏は、亡友和田龍児氏(豊田工機・摂南大学)の想い出を、A4判2枚の原稿を見ながら語ってくれた。彼とは福島市の実家が向かいあい、大学も同じ下宿だったという。成瀬政男先生の「歯車の話」を読むように勧められ、小泉氏は、藤井康治先生の研究室で「ハイポイド歯車」の卒業研究をする。後年「これから世の中は超精密加工の時代になる」と言つて、小泉氏に転向を勧めたのも和田氏である。小泉氏はのちに、東工大、東北大で超精密加工の講義を担当するようになり、つくば市の高エネルギー

ギー物理学研究所で定年を迎える。

永田 充氏は、2006年に社会福祉士事務所を開設し、介護支援専門員、成年後見人、社会福祉士として活動を続けている。「定年後の仕事、どう探す?」(杉山由美子著 朝日新書、2014年)の中で、紹介されている永田さんの活動と現状・将来を、一同は配布資料を見ながら聴き質問をする。

昭和10年生れの数名が、2015(平成27)年3月末に誕生日を迎えると、われわれは、全員が80歳を超える。そして2015年11月に、17回目の同期会を開催する。

八戸 信昭

(精密工学科32年卒)



精密工学科32年卒クラス会 銀座亭にて
平成26年11月11日
前列左から、山崎 勉、永田 充、小林貞雄、八戸信昭、加藤 洋、神賀 弘
後列左から、横山靖男、小野 傳、山本義次郎、福来友康、小泉 晋、町 眞次

精密三十五年卒同期会

精35同級会がH26年10月8日ー9日に久し振りにローズホテル横浜で開催された。

当初Oー1から、暫く仲間に合わせていないが関東地区だけでも逢おうとの呼びかけでスタートし、更に関西のメンバーから、全体で追うようとの声がかかり、今回4年振りの同級会となった。

当日は台風一過で好天にも恵まれ、懐かしい顔々が1人又1人と会場に集まり、出席者は予定通り15名であった。

会は幹事の1人のOー2から「私達は仙台での4年間の生活を経て、1960年、産業界の戦士として全国各地へ巣立って既に半世紀、振り返ってみると何と変化の激しい技術革新の時代だったのか!

象徴的には、汽車(しかも夜行)に乗って仙台を離れた私達が、今は新幹線50周年を喜んでいるし、東京タワーからスカイツリーに関心は変化している。

この間、私たちの苦勞して遣って来た仕事は、社会のニーズがまずは効率、合理性の追求、後半は地球環境問題、安全第一と変化し、スタートはメカで制御、メカで仕事をさせる機器からメカトロ時代を経て、制御はアナログからデジタルに、仕事もデジタル制御に適したアクチュエーターへと激変した。

そして企業戦士を卒業した現在、私達はそれぞれ個の生活へと戻り、残された余生は楽しく人間らしい生き方をしよう。」主旨の挨拶が有り、宴会に入った。宴が進んだころ、各人ショートスピー

チで、それぞれの近況などを話そうよ。」と、言うことで更に盛り上がった。

要約すると、Sー1は「100名以上からの地区の老人会の会長にさせられ、老人会の面倒をみたり、役所との折衝とか結構忙しい。」Hは「NPOの活動で理科ジイのメンバーとして、地区の子供たちに理科の実験の楽しさを指導したり、ヘリコプターの模型を作ってもらい、どうしたら良く飛ぶようになるか? それぞれ子供達に工夫させ、その喜びを味わってもらおう」等、地区のボランティア活動に勢を出している。

UやOは「現役時の仕事上の繋がりで20年、30年の長い間、ゴルフの交流とか模型飛行機の交流とかを続けている。



Aは「趣味のフルートで仲間とコンサートを楽しんだり、仕事で学んだことを本にしている」Yは「奥さんと一緒に始めたソーシャルダンスにのめり込み今もダンスを楽しみながらダンスの先生もしている」S-2は「孫が某大学の吹奏楽団の常任指揮者をしていて先が楽しみ」Fは「血液の難病と闘い、体形も人格も変わった」。等々。皆かなり積極的に活動していて、若い時より、それぞれ雄弁に成ったようだ。

宴は更に幹事の部屋で二次会へと進み、それぞれ再開を約束し終了となった。尚、私達は既に4名の仲間を失い、今回欠席者の中には、自分か、家人かが健康が優れず外出が不可能な人が8名居り、残念ながら老いとの戦いが始まっている。

又、学校卒業以来カナダに移住した仲間Jが居るが、今回、機35卒の加賀さんのお蔭で連絡が取れ感謝します。

太田 穰
(精密工学科35年卒)

機械三十六年卒同期会

私たち機械36年卒の同期会は、卒業10年目から毎年秋に在学中に主任教授としてお世話になった横堀武夫先生の土上に合わせて東京で開催して来ました。

クラス会の会場は、在職中は都内に勤務している方の勤務先の会社の施設を持ち回りで、定年退職後は学士会館を利用して開催し、お互いの近況報告を主に歓談しました。

卒業後の節目の年は、25年は仙台市内、35年は作並温泉、47年は片平、川内及び

三神峯キャンパスを見学して秋保温泉で宿泊など、仙台近郊で開催しました。

卒業50年目の2011年は東日本大震災となってしまいました。が、ちょうど復興支援をスローガンに7月仙台において「東北六魂祭」が開催されましたので、急遽被災地支援を込めて仙台市内で開催し、「祭参加と被災地見学」を行いました。

最近は全員が後期高齢者となり、2、3の方はまだ現役で活躍しておりますが、大部分の人は現役を退き、趣味や地域での社会活動などに参加しています。比較的日中でも自由に行動できる状況となりましたので、「もつと気軽に参加できるようなクラス会へ」と言う横堀先生からのご提案も取り入れて、開催の仕方を以下のように大きく変更しました。

①1年に1回の開催では欠席すると2年間合わないことになるので、年間に「複数回開催」とし、「無理なく出られる人が気軽に出席するクラス会」ということを目指しています。

②これまでは夜の懇談会のみでしたが、これからは昼間に「懇談会+α」のクラス会となるように企画しています。

③「+α」の行動としては、最近テレビで「旅」の番組が多く報道されており、雑誌などでも沢山の観光情報があります。皆さんの希望を聞きながら開催地を決定し、決まったらそこに居住されている方にも企画に協力して頂いて同期会を開催しています。

昨年後半の同期会は、今年世界遺産に登録されて大変話題となっている「富岡製糸場」を先取りして訪問し、上州名物を味わいながらの懇談会と妙義山の紅葉

を満喫しました。

今年は、初夏に堀切菖蒲園まつりと東京水上バスハイキングを、秋には千葉県佐倉市の歴史博物館と武家屋敷跡の見学を行いました。

「新しい発見もあり、楽しい同期会」を目標に取り組んでおります。

添付の写真は、平成25年秋の訪問先の富岡製糸場入り口での集合写真です。

岩垂 健
(機械工学科36年卒)



精密三十二年卒同期会 青葉山麓会名古屋の集い

2012年4月の青葉山麓会で、次回は名古屋でやることが決まった。鈴木武さんを中心に伊藤新一さん、平山寿一さん、中村弘道さんと関西在住の方々が準備を進め2014年4月16日開催の運びとなった。

当日正午過ぎ名古屋駅に集合した。神戸の大泉さん、新潟の星野さん、関東地区から加藤さん、佐藤さん、柿崎さん、山崎さん、鈴木(雄)さん、橋本さん、岩月(筆者)の7名、幹事の平山さん、中村さん、鈴木(武)さんの3名、計12名が集まった。伊藤さんは腰痛のためホテルで待つとのことだった。

1時に産業技術記念館に着き、エントランスロビーに展示された巨大な環状織機をバックに記念写真を撮った。この織機は回転運動で布を織る、豊田佐吉の独創的な発明である。

精密S53年卒の木村さんから、記念館は織維機械館と自動車館から成り展示されている紡織機群は今も動くのが自慢、など概要の説明があった。

織維機械館では綿から糸、糸から布を作る工程を見た。縦糸切れの実演、特許になったシャトルの横糸切れの対策は興味深かった。自動車館では1936年に完成した流線型のAA形乗用車が展示されていた。2階に展示された年代別・車種別エンジンブロック、1階フロアでは生産技術の変遷のラインを見て廻った。

徳川美術館に行き、講堂で美術館の歴

史と見どころを聴いた。尾張徳川家は徳川御三家の筆頭大名で、尾張家に伝えられた重宝、收藏品は一万件余ある。第1室には武家のシンボルである武器刀剣が展示されていた。茶室、書院造り、能舞台は絢爛豪華な造りだった。

同窓会会場のルブラ王山ホテルの玄関で伊藤さんが出迎えた。6時に宴会場に集まった。幹事の計らいで準備された大学4年の時の研究室毎の写真がスクリーンに映し出された。久しく忘れていた同期の顔にしばしの間あの若い時代を思い出した。

大泉さんの乾杯の音頭で宴会が始まり、近況報告になった。年が年だけに病気や体調、健康維持に関する話が多かった。数名の方から大病を克服して今日の健康を回復し元気で生活をエンジョイしている経験が語られた。



星野さんが東北大震災の復興の話をした。以前横浜国大を訪問した折、当時の飯田学長から宮脇先生の森つくりの話があった。その宮脇先生が東北大震災の復興のために瓦礫を生かす「森の長城プロジェクト」で活動している。タブの木の苗造りに1本700円が必要というところで、13人分のバッチをもらって来た。明朝フロントで皆さんにこのバッチを渡す。語りの中に熱い思いを感じた。

近況報告が終わったところで、次の青葉山麓会の集いを吉井さんがいる九州でどうか、と山崎さんから提案があり大賛成で決まった。二次会の部屋に移動し、飲み食いしながら雑談となった。10時過ぎに「青葉燃ゆる」を歌ってお開きとなった。翌朝フロントで清算し、星野さんからのプレゼントのバッチを受け取った

岩月 孝三
(精密工学科36年生)

精密三十九年卒同期会

平成26年6月9日(月)〜10日(火)に精密39年卒の同期会を松島の大観荘において開催した。卒業してから50年経過したのを記念して開催したものであり、今回が卒業後最初の同期会になる。卒業アルバムには49名の氏名と当時の連絡先が記載されているが、把握できている限りでは既に5名が他界している。

今回の同期会に参加したのは懇親会場における記念写真に写っている22名である。大観荘には午後5時までに到着するよう案内があったが、このタイムリミットに間に合うミニツアーが須田(旧姓富永) 佑氏のお世話で企画され、9名が参

加した。ミニツアーは遊覧船で塩釜から松島に向かうもので、塩釜神社参拝等が含まれている。

懇親会は午後6時半より開催され、初めに、会の発起人代表とし、全ての事務処理を一人でこなして頂いた庄司克雄氏（仙台在住）より今回の同期会の開催に至った経緯の説明と挨拶があった。続いて乾杯（音頭は江村超）に移り再会を祝した。司会は白川貢氏である。

暫くの歓談の後に、着席の右回りの順に一人宛、卒業後から現在に至る50年の紹介がなされた。正真正銘、卒業後一度も合っていない人もいて、全員静かに聞き入った。

翌朝は、前日の濃霧が晴れ、点在する島々の絶景を部屋から楽しむことが出来た。朝食を早々に済まし、所要等で早めにチェックアウトした人を除き、バスで東北大学機械系の見学会に向かった。見学会の参加者は16名である。

機械系では、最初に機械系の概要について厨川常元教授から説明があり、次に工学部青葉記念会館の四季彩にて内山勝教授から大学の現状紹介を受けながら昼食を共にした。昼食後は、会館の屋上に上り仙台市内の発展の様子を目に焼き付けた。卒業後初めて仙台を訪れた人は、学生時代には無かった高層の建物が林立する変貌ぶりに驚いていた。次に旧精密工学科建物西端の空き地に置かれた発電用タービンの前で記念写真を撮った。

見学先は、厨川教授の研究室、内山教授の研究室、実習工場等であり、世界をリードする最先端の研究が行われている様子を目にした。実習工場にはNCマシンが並び、主にNCマシンとロボッ

トで構成されている近代工場を理解させる教育に重点が置かれている様子が伺えた。予算の関係で片平丁時代の旧式機械を青葉山に運んで実習工場とした頃の雰囲気は今も全く無く、クリンなイメージの工場に生まれ変わっていた。

今回の同期会は、中部地区での開催を希望する声が強く、中部地区の方々にご検討頂いているところである。

江村 超

（精密工学科39年卒）



前列左から 江村超、倉岡義信、石丸路芳、辰巳有孝、青柳充、大草文夫、増淵洋
中列左から 岩前猛久、須田（富永）佑、尾原（矢内）紀久男、上村伸治郎、
成沢郁夫、中川安一、向山直樹
前列左から 佐藤昭彦、田丸卓、関口清、白田俊則、家木幸一、白川貢、庄司克雄、
高橋恒松

機械四十二年卒同期会

東日本震災のため延期になっていた仙台での同期会が二〇一四年十一月五日、六日に開催された。企画内容としては、これまでのような初日の懇親会、二日目

の観光に、仙台開催ということで要望が多かった機械系の見学が加わった。

開催初日は正午までに青葉記念会館に集合し、機械系見学の件でお世話になった同窓会の庶務担当幹事の井口先生と事務局の武井さんにもご出席いただき、三階のレストラン「四季彩」で会食した。食事後、同会館の屋上に上り青葉山キヤンパスを眺望した。多くの高層ビルが建ち並び、周りに建物が少なく殺風景だった卒業当時とは大変な様変わりだった。井口先生の案内で、機械系周辺の展示施設を見学し、講義室で機械系の変遷、現在の組織の概要などについて説明を受けてから、湯上・清水/井口研究室と山本・佐野研究室を見学した。丁寧な説明を受け機械系で行われている研究の一端を知ることができた。見学後、青葉城跡に移動・散策してから宿泊先の秋保温泉「岩沼屋」に向かった。六時からの懇親会では、始めに全員（二十六名）揃ったところで記念写真を撮った。昨年十二月に病気で亡くなった城石君に対して黙禱し冥福を祈った後、会長の竹政君の挨拶に続いて高橋（正）君の音頭で乾杯し宴会に入った。恒例の近況報告ではいろいろな内容の報告があったが、仲間のほとんどが古希を迎えたこともあり健康に関するものが多かった。足・腰の痛みを予防・軽減する筋肉の鍛え方の実演（稲場君）やオカリナの演奏（大原君）が披露されるなど、会は大いに盛り上がった。一人二分半の制限時間を大幅に超える報告の続出で、全員が終わるころには予定の三時間が過ぎたため宴会を終了し、会場を幹事部屋に移しての二次会となった。膝を突き合わせて飲む、宴会とは異

なった雰囲気の中で話は尽きず、日付が
変わる少し前にやつとお開きとなった。
翌日は貸し切りバスによるツアーに出
掛けた(参加者十九名)。まず松島へ、
次いで津波被災地の現状を見たいとの希
望を受け、多数の犠牲者が出た中野、荒
浜地区を通る県道十号線を南下した後、
市街地に戻って仙台市内を観光するコー
スである。松島では「西行戻しの松公園」
に寄った。閑散としていたが小島が点在
する松島湾を一望するには絶好の場所
だった。被災地視察では、数軒の廃屋が
残るだけの荒涼とした風景が続ぎ、また、



遠くに見えた防潮林は櫛の歯が欠けたよ
うな状態で、当時のテレビに流れた映像
とも重なって巨大津波の怖さを改めて感
じた。市街地に向かう途中で、亡くなっ
た城石君の自宅前でバスを止め、代表の
四人が仏前で焼香した。バスを青葉通り
で降り、昼食を一番町の「利久」で、今
や仙台の名物として全国的にも有名な
なった牛タン料理を堪能した。食後、近
くの片平キャンパスを散策したが、驚い
たことに、我々が二年生後期の繰上げ授
業で通った昔の機械工学科の建物が、改
装されてはいるものの名前を多元物質科
学研究所に変えて現在も使われていた。
この後、瑞宝殿、川内キャンパス、大崎
八幡神社を見学し、仙台駅に到着。ここ
で、次回三年後に開催の横浜での再会を
誓って解散となったが、今回の学生生活
を送った思い出深い仙台での開催に、皆
の顔には青春時代が蘇っていた。

北野三千雄
(機械工学科42年卒)

機械四十二年卒同期会

平成26年4月12日14時に、昭和63年11
月以来およそ25年5カ月ぶりに卒業以来
2度目の同期会が、東京は銀座5丁目の
日本料理店『いらか』で開催された。

今回の開催は、今回の幹事の一人であ
る大久保富士雄さんの提案によるもの
で、年齢や体力等を考慮して、長く開催
されなかった同期会の再開を検討する最
後の機会と考えたこと、また同期生の歌
書信夫さんの声に動かされ具体化したの
だった。

時期と会場については、同期生が北は

宮城県から西は長崎県まで広く全国にい
るが関東在住者が6割を超える、そして
久しぶりの開催ということで、集まりや
すさを優先して、土曜日の日中、東京で
ということになった。繁華街のど真ん中
ということ、会場へ無事に到着される
心配したが、全員が時間前に集合し、
無事開催にこぎつけられた時はホッと安
堵した。

43年卒業生は52人であるが、物故者が
8名、連絡先不明の方が5人を数えたが、
残りの39名の半数を超える22名の参加を
得るところとなった。なお、会場がビル
の地下にあつたため、車椅子によるアク
セスが困難との理由で参加を断念され
方がおられたことは今後の反省となっ
た。

会は物故者の報告と黙禱を捧げること
から始まり、発案者の一人歌書さんの音
頭による乾杯の後、間に一人3分間の自
己紹介を挟んで、歓談に時間の多くを割
いて進められ、最後に幹事の久保さん
の閉めの挨拶、そして記念写真撮影で閉
められた。

25年半ぶりの開催のため、進行が円滑
に進むかどうか心配されたが、こうした
会合の通例どおり、まさに30分もしな
うちに、25年前、あるいは46年前にタイ
ムスリップし、最初の心配が全く杞憂に
終わるから不思議なものである。こうな
ると、自己紹介として決めた時間もなん
のその、報告することが多すぎて持ち時
間を大幅に超過する人あり、一方他の方
への配慮からか遠慮気味に短時間で済ま
す人ありと、学生時代の性格がそのまま
披露され、巧まざる演出となったのも楽
しい思い出となった。



分たちがこうした時代に恵まれたことに感謝する一方、我々の子・孫の世代の不透明さを考えると、責任と申し訳なさを感ずることも事実である。

大和田克美

(機械工学科43年卒)

機械四十四年卒同期会

多くの同期が古希を迎える時期に会おうじゃないか、という発想から、「とりあえずの幹事」が集まり、同期の消息追跡、案内を発動した。

場所は集合しやすい東京駅から徒歩3分、丸の内二丁目「英国風居酒屋 COOPERS」。

11月11日には17人の同期が集まり、まづ物故者へ黙禱をささげた後、3時間近く近況や昔話で大いに盛り上がった。

セットしたのは、まさに英国風パブに相応しい質素なものであったが、話しが主役でもありけつこう楽しい雰囲気には異存はなかった。

ビールとワインに加え、フィッシュ&チップス、野菜サラダ、ローストビーフ等々で、温泉宿とはまったく趣を異にした宴でもあり、肩のこらない好いものであった。

各位、再会までの時間の経過を吹き飛ばすほどの様相で、そのまま講義、実験、製図に入って行けそうな20代の青年達、というように互いの姓名が即座の思い出された。

閉会后、半数以上が2次会に繰り出し、時間の経つのを忘れる秋の宵を楽しんだ。これを機に「来春連休明けに、古希の同期会を秋湯温泉に泊まり、学び舎見学」

を提案したところ、賛同者は多きに至つた。

沼倉 悠

(機械工学科44年卒)



大嶋 朝倉 高橋(順一) 扇谷 高橋(道夫) 山上 富樫 沼倉
桑原 壘 渡辺 太田 山田 篤 鈴木 杉山 菅昌

機械四十五年卒同期会

機械工学科昭和四十五年卒業生は、同期会を平成二十六年十月二十六、二十七日に、南蔵王鎌先温泉「すずぎや旅館」で開催しました。

今回の開催にあたっては、幹事長の長谷部君に加え、浅野君も協力して宿の選定、手配を手掛けていただきました。長谷部君が普段から同期生の連絡先を把握し、早い時期から開催を予告していたおかげで、

卒業後46年を経て古稀(数え70歳)を迎え、多くは悠々自適の生活を送っているが、今なお現役という人も10人ほどおり、その中には単身赴任を願ひ出て、自身の趣味三昧の生活環境を確保しているとの豪の者の報告もあった。

自己紹介の内容は、ほとんどが悠々自適の生活やボランティア活動等の最近の生活の紹介が中心だが、闘病生活の披露や、親御さんの介護等、多くの人が遭遇し、またこれから遭遇するであろう経験の報告もあった。

会は3時間を経て、次回の開催時期(2年後の同時期)と幹事を選出して、お開きとした。

戦後の日本の経済復興に大きく貢献した世代としての経験からか、よき時代であったとの肯定的な発言が多かった。自

遠方の宮崎県から菊池君が、山口県から牧野君が参加し、前回は若干下回ったものの二十一名となりました。

午後五時頃にはほとんど全員が集合し、温泉に浸かった後、懇親会は午後六時から始まりました。長谷部君が開催経緯やスケジュールを説明したあと、村田君の音頭で全員が元気に乾杯を行い、盛り上がりがあったところで五名が近況報告を行いました。ヤジや突込みの合いの手が入り賑やかな近況報告でしたが、すでに孫が大学生という話、アメリカ駐在の経験談、原発所長の苦労話など、卒業後四十四年の歳月と活動の足跡を感じさせる多彩な報告となりました。その後は童心に帰って、大豆拾い、ナイスオン、扇的など五種のゲームを四チームに分かれて行い、最下位のチームは罰としてカラオケを歌うことになりました。同期会初の楽しい企画を考えてくれた長谷部幹事長に感謝でした。井小萩君の手締めで宴会をお開きとしたのち、二次会はコップ酒を飲みながらの談笑タイムとなりましたが、時を忘れて話が弾み、お酒が足りなくなる有様でした。

翌日は、朝食後に直帰組とイベント組とに分かれ、再会を約束していったん宿の玄関で解散しました。イベント組十二名は三台の車に分乗し、まず東日本大震災の被災地への慰霊に向かいました。閑上地区の被災地に作られた慰霊塔では、献花して冥福を祈りましたが、このころから大粒の雨が降り出し、まだほとんど復興が進んでいない荒涼とした土地を濡らしてゆきました。一日も早い復興を切に願うものです。

仙台市街地での昼食後、車で青葉山に

登り、懐かしの学科訪問を行いました。卒業した頃はひ弱な木だった樺が一抱えほどにも成長し、枝が道路にトンネルを成している様子に、卒業後の時間の経過を感じたものです。当時の機械工学科、機械工学第二学科の建物周辺を散策したあと、桑野教授に「センサーネットワークによる持続可能社会」の説明をしていただきましたが、ご説明の内容から、機械系学科の研究分野が多面化し、機械分野のみならず電気、電子、化学、システム、そして人文科学も含まれた総合科学の分野に進んでいることを実感した次第です。なお学科訪問に際しては、機械系同窓会事務局の武井さんに大変ご尽力いただきましたことを、この紙面をお借りして感謝申し上げます。



さて次回開催は、古稀に当たる七十歳の節目に計画しようということになりました。次回を楽しみにしている人からの期待は高く、次の幹事長と幹事は開催内容に頭をひねることになりそうです。また、元気な同期のメンバーと会えることを楽しみに筆を置きます。

近藤 孝

(機械工学科45年卒)

機械四十八年卒同期会

前回の同期会は平成24年5月仙台に14名が参集し盛大に開催され、2年後に関東地区での開催が決定された。その後、今回の日時と場所は、アンケートの結果、平成26年10月19〜20日、箱根・仙石原での開催が決まった。卒業間もない昭和49年の同期会開催後、前回の平成24年までブランクがあり、前回参加出来なかった同期生にとっては卒業以来、実に43年ぶりの再会となるので、是非思い出に残る同期会にしよう、と、幹事7名(大津賀、湖山、杉山、林、藤井、松平、岩井)は担当を分担、知恵を出し合って準備を進めた。

同期生57名中、最終的に24名の参加が決定、10月19日箱根仙石原のホテル「和の香」に全員が無事到着した。箱根はどこころも多く、久し振りの自由な一人旅有り、また事前に声を掛け合って道中連れ立っての旅…と、めいめいホテル迄の道中を楽しんで来られた様子であった。小さなホテルだが、全館貸し切りに出来たことで余裕のある部屋割が出来、また他の宿泊客に気兼ねする必要もなく、アットホームな雰囲気皆の到着を迎え

られた。レストランでの宴会は、宴会担当の杉山氏により開始され、既に鬼籍に入られた8人の先生方及び故人となった同期生3名（小林正、鈴木芳夫、渡辺昇）のご冥福を祈って、冒頭に1分間の黙禱を全員で捧げた。

さて、幹事の挨拶に続いて、24名の近況報告が始まり、卒業以降43年にわたる人生と風雪・仕事・健康・現今の関心事・今後の抱負等、同期ならではの味わいのある報告が相次ぎ、話に頷く人、つい笑みがこぼれる人、我が身に照らして共感する人等、思いやりと暖かさのこもった表情が拍手と共に浮かびあがった。今更ながら就職にまつわる裏話も披露され、大いに盛り上がった。これも一挙に43年も前に意識が逆戻りし、職場のくびきからも解放され、同じ教室に通い、共に青春の一時期を過ごした者だけが共有出来る空気がそこにあつたからであろう。宴の中盤、藤井氏の音頭で学生歌「青葉もゆるこのみちのく」を熱唱し、皆の気持ちが更に高揚した。この後、2年後の次回幹事を快諾してくれた仙台在住の西村氏の軽妙な挨拶が続ぎ、宴は更なる盛り上りを見せた。本当に旧交を温めるとはこの事かと思う楽しいひと時であった。

さて、3時間に及ぶ宴会を切り上げた後は、幹事の部屋に集まり、林氏が調達してくれた貴重な酒「獺祭」や、宮澤氏差入れの宮城の清酒等で杯を傾けながら二次会を開始、思い思いの輪にて近況を語り合った。まさに、学生時代にこのように夜が更けるのも忘れていろんなことを語り合ったことを思い出させるような光景であった。他の宿泊客はおらず、誰憚ることもなく、深夜まで話せる雰囲気

気はとても心地良かった。それでも、予め調達のアルコール類はかなり余つてしまい、やはり皆な飲めなくなつたなあ：と、後で幹事一同苦笑した。翌日20日朝は、次回2年後に仙台で再会しよう！と、お互いの健康とご家族の幸せを祈りながら、見頃のすすきの原、箱根旧道、美術館巡り等、思い思いのコースに向かわれた。その後、全員の無事帰宅を確認出来たことが何よりで、次回同期会の成功も祈りたい。

若井 泰雄
(機械工学科46年卒)



平成 26年 10月 19日 箱根町仙石原 箱根 和の香にて
後列 波多腰、多田、濱、米倉、西村、林、久保田、内田、山中、河原、松平、大津賢
前列 永橋、湖山、矢崎、藤井、佐藤、清田、若井、中里、宮澤、高野、小田桐、杉山

精密五十一年卒同期会

昭和は遠くなりけりの感さえ漂う平成二六年十一月一日、精密工学科昭和五一年卒業の二六名が三八年の時空を超えて東京はWTCビル三八階離宮飯店に集まった。あたかも仮装束を脱ぎ捨てるかの様に、還暦を過ぎ耳従う紳士から瞬く間にあの日あの時の青葉山へと帰巢し皆元の素の姿に戻った。大分、長野、大阪、青森、富山等々全国各地から駆けつけた皆の笑顔に幹事も嬉しい限り。

我が世代は、オイルショック直撃の就職難の時代に遭遇し、高度成長は終焉し所謂変革期の自他共に迷い多い時代に出た。

論語に「六十にして耳従う（人の言葉を素直に聞ける様になる）」とあるが、及びもつかぬと思つていたこの言葉も、その歳になつてみれば、斯様な我々世代にもそれでよいと言つてくれているかの様な優しい含蓄の響き。

今や落ち着いた風情を醸し出す熟年初老紳士になり、高級料理店のそれなりの会費にも耳従い、尚且つ歳のせい料理を残す者もいる。かつて工明会館で懇親会費五百円の豚肉すき焼きを赤い内から先を争つて食つたのは昨日の事の様であるが、今となつては夢幻。

酒も入り用意したる云十年振りの近況報告は力も入るところ。一人2分の枠に納まる訳もなく、制限時間のゴング鳴らすヒール役を某幹事自ら買つて出、お陰でタイムオーバーもなんとか回避。会社では決して言えない告白、白状、懺悔あり、片や淡々と実質自慢、空謙虚あり。

しかし誰一人、枯山水はいなかった。サ
ンデー毎日の年金生活、気楽な様で気楽
でない囑託勤め、海外法人立上でまだま
だバリバリの現役、スピンアウトのIT
企業家、企業助け・人助けのコンサル業、
クラシック趣味高じ欧州音楽旅行記を物
したる者、リストラ配奮う人事部長、
両親介護と孫の面倒に勤しむ者、何れ本
業目指すか国際観光協会編集長、単身赴
任が明け家人の元へ戻った者、その逆の
者。

卒業を座標軸に各々異なる道へと巣
立ったが、百人おれば百の物語、全て自
己責任の来し方行く末を風呂敷に包んで
待合せ場所を違えず七六名中二六名が又
落ち合えた。人生に結節点があるとすれ
ば十一月一日はその一つに違いない。
明日からまた魍魎魍魎も徘徊する現実世
界に多少くたびれた羽根で飛び立つ友



よ、願わくば再びこの地平に集い我ら五
一年卒の祝祭を挙げたいものだ。二次会
も含め六時間弱、別れを惜しみ再会を固
く期し帰路に着く友の後姿に幸いあれ、
乾杯！

武田信一郎
(精密工学科51年卒)

機械五十五年卒同期会

平成二十六年八月三十日、青葉記念会
館食堂にて機械工学科五十五年卒同期会
が開催され、海外勤務や外せない用事か
ある者を除き二十四名が参加した。これ
には大学院から同窓となった渋谷君、新
田君も含まれている。

卒業以来はじめての同期会で、実に三
十五年ぶりの再会であった。往年の美青
年達もさすがに経年変化し、最初は誰だ
かわからないため昔の写真などで確認し
たりしていたが、次第に以前の記憶を取
り戻してくると、あたかも学生の頃のコン
パのように和気あいあいと盛り上がり、
とても楽しく嬉しい会合となった。
発起人の船崎君、大崎君、橋田君には、
感謝、感謝である。東北大に残った橋田
君は、「長年の懸案だった同期会を開催
しなくては」と大変なプレッシャーを感
じていたとのこと。(これで少しは肩の
荷が軽くなったかな?)

はじめに、希望者参加の青葉山キャン
パス散策ツアーを行った。東端に位置す
る、懐かしき機械系建屋から各学科の前
を巡り、西端に当たるゴルフ場跡地に建
設中の新キャンパスを見学し、最後に青
葉山キャンパスで一番高い総合研究棟の
最上階から仙台を眺望するというコース

であった。新しい建屋や会場となった青
葉記念会館の食堂がとてもモダンになっ
ているのに驚いた。また、私達が在学し
ていた頃は狸と遭遇することはあつた
が、近年ではキャンパスに熊が出没す
るようになり目撃情報マップが作られたと
聞いた。

まず会の冒頭、世話人から昭和五十五
年卒同期会結成が提案され全会一致で承
認されるとともに、岩手大にいる船崎君
が会長、大崎君、橋田君が幹事にそれぞ
れ選出された。(よろしくお願いします)
しばらく立食パーティーで歓談し、場
が和んできたところで参加者の近況報告
があった。なんといってもこれがメイ
ンイベントである。三十五年という長い年
月の間には、それぞれ様々な経験をして
おり、どの人の話も興味深く面白い。長
い間海外にいた人、転職した人、孫がで
きて「おじいちゃん」となった人、大病
を患った人、また、趣味関係でテレビに
出た人など人生色々である。共通してい
るのは、卒業後真面目に働いていたらし
いことである。話をしてみると、みんな
それぞれの所属組織で重職に就いてい
る。学生の頃は感じなかったが、「東北
大は素晴らしい大学で、学生も結構でき
る奴らだったんだな」と今になって再
認識する次第である。最後に橋田君が東
北大および機械系の現状を紹介した。学
問、技術、世間の情勢が多様化してい
る中、機械系分野をどのように振興してい
くべきか真剣に考えているとのこと。難
しいところだが、OBとしては、母校そ
して機械系の発展を願うばかりである。
あつという間に終了予定時間。久しぶ
りに「青葉もゆる」の絶唱の後、次回同



青葉記念会館での集合写真

期会を二年後に関東地区で開催することを決めて閉会となった。その後、時間と体力のある者は、二次会、三次会にまで繰り出したという。
皆さん、次の会合までお元気で。お体を大切に各自愛下さい。

服部 俊介
(機械工学科55年卒)

事務局便り

青葉山に、地下鉄がやってきます。駅改札がイクスカ(仙台版 Suica) 対応に替わり、バスの料金箱も電子マネー対応になります。目にするものが東京と同じになってこそ、それでも消えない仙台らしさ、ゆとりを感じるのもオツなものです。(T. N)

- ◎同期会の原稿(ニュースレター)および同窓会誌の原稿を募集しています。文字数・要綱につきましては事務局までお問合せください。
Tel/Fax 022-795-6926
E-mail : dousou@mech.tohoku.ac.jp
ホームページ : <http://www.mech.tohoku.ac.jp/dousou/>
- ◎住所変更の場合、新住所をお知らせ下さい。
- ◎懐かしいお写真を事務局までお寄せください。会誌、ニュースレター、ホームページに掲載させていただきます。
- ◎同期会の開催を支援します
同期会等の開催を支援致します。開催計画がお決まりになりましたら機械系同窓会事務局までご相談下さい。同期会の開催予告等をホームページやニュースレターに掲載致しますのでご連絡下さい。(ホームページは随時、ニュースレターは発行の2ヶ月前まで受付いたします。)

学生支援に関するご報告

毎年、機械系の学生に対して様々な支援を実施しております。5月には恒例の工明会運動会に機械系4専攻と流体研の各代表者に2万円ずつの支援(計10万円)、また機械系の女子学生に対する支援(10万円)、3月の卒業証書授与式後に開催される謝恩・祝賀会に支援(10万円)を行っております。また昨年より、機械系学生と先輩との交流会として、機械系オープンフェスティバルを開催しております。
この場をお借りしまして、同窓会の活動にご支援頂いた会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

■同窓会事務局

月～金 10:00～16:00

Tel/FAX 022-795-6926

E-mail dousou@mech.tohoku.ac.jp

平成 26 年度東北大学機械系同窓会 通常総会・特別講演会予告

平成 26 年度通常総会は、平成 27 年 3 月 8 日(日) 東北大学工学部中央棟 2 階(青葉山キャンパス センタースクエア内)にて開催されます。多数会員のご出席を御願ひ致します。

記

日 時：平成 27 年 3 月 8 日(日)
会 場：東北大学工学部中央棟 2 階大会議室
(青葉山キャンパス センタースクエア内)
〒980-8579 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6

次 第：14:00-14:30 総会
14:40-15:40 特別講演会
題目：人々の未来を拓く社会イノベーション
～新たな協創による成長をめざして～
講師：石塚 達郎 氏(機械 53 年卒)
株式会社 日立製作所 代表執行役 執行役員社長

交流会：16:00-17:30
会 費：5,000 円

編集後記

同窓会ニュースレター 20 号をお送りします。機械系では、国際化等に向けた様々な施策が推進されています。皆様には、機械系の活発な活動をご周知頂き、今後とも同窓会運営にご協力頂ければ幸いです。

最後になりますが、原稿執筆をご協力下さいました皆様に厚く御礼申し上げます。(Y. S)

20 号の表紙 工学部の中央を走る市道の長さ約 1 キロのケヤキ並木